

競 技 注 意 事 項

1. 本競技会は 2024 年日本陸上競技連盟競技規則と本大会申し合わせ事項により行う。
- (1) 審判長および競技役員はいつでもシューズチェックをすることができ競技者はその指示に従わなければならない。明らかに規則・規程違反のシューズや疑わしいシューズはチェックや回収の対象になることがある。競技後にシューズの違反が認められた場合は、審判長が「失格」と判断し、記録が取り消される場合がある。なお、本競技会では全フィールド種目では上記の要件・備考に記載されている「靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。」の規定は適用を除外する。

競技用靴・靴底の厚さに関する規定 (TR5.2) 【2024 年 10 月 31 日まで有効】

種 目	靴底の最大厚さ	要件・備考
フィールド種目(除:三段跳)	20mm	全投てき種目と三段跳を除く跳躍種目に適用する。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目(800m 未満の種目、ハードル種目を含む)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目(800m 以上の種目、障害物競走を含む)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは道路競技と同じとする。
道路競技(競走・競歩)	40mm	

重要告知

競技用靴に関する規程 5.3 に従い、2024 年 11 月 1 日以降、靴底厚が下記の表に記載されている最大の厚さを超える既存靴は承認されなくなり、対象競技会では着用できなくなる。

【2024 年 11 月 1 日から有効】

種 目	ソールの最大厚さ	その他の要件 / 注意
トラック種目 ハードル種目 障害物競走	20mm スパイクシューズ または ノン・スパイクシューズ	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは道路競技と同じとする。
フィールド種目	20mm スパイクシューズ または ノン・スパイクシューズ	全跳躍種目で、競技用靴に関する規程 10.3 および 10.4 に記載のとおり、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない(前足の中心は、靴の内部の長さの 75%にある靴の中心点。踵の中心は、靴の長さの 12%にある靴の中心点)。
道路競技(競走・競歩)	40mm	
クロスカントリー	20mm スパイクシューズ または 40mm ノンスパイクシューズ	競技者はスパイクシューズまたはノン・スパイクシューズ(ロードシューズなど)を履くことができる。スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは 20mm を超えてはならない。ノン・スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは 40mm を超えてはならない。
マウンテンレース トレイルレース	制限なし	

2. 入場について

入場証は不要とするが各校顧問が入場者の把握に努めることとする。観戦は学校関係者のみとし、各校との関係について確認を取ることがある。

3. 競技場の使用について

- (1) 横断幕、ノボリの設置は南北の芝スタンド(土盛スタンド)後方およびバックスタンド後方のみとする。

(2) テントの設置について

①正面の階段スタンドには設置しないこと（学校単位での場所取りは禁止）。

②テントは芝生スタンド・バックスタンドに設置し、ロープ等が通路に掛らないようにすること。

(3) 使用した場所は各学校で責任を持って清掃し、ゴミ等は必ず持ち帰ること（**帰路では捨てない**）。

(4) トラック・フィールドおよび練習走路以外でのスパイクの着用は禁止する。

(5) 更衣室は10名以内で更衣のみの利用とする。使用時間は1人5分以内とする。また、清潔に使用し私物を置かないこと。

4. 練習について

(1) 練習中の走る方向は競技会と同じ方向への一方通行とし逆走は禁止。学校・個人のハードル等は持ち込まないこと。また、ゴムチューブ等を使ったスピード練習は禁止する

(2) 競技場内および公園内でのメディシンボールなどの物を投げる練習は一切認めない。

(3) 投擲・跳躍競技は準備が整った後、競技役員の指示で練習してもよい。

(4) 競技開始前のトラックでの練習は次のとおりとする。

競技開始前の競技場での練習について

競技会開始前の競技場（トラック）での練習は、周囲の動きに十分注意して行うこと。

ただし、練習可能時間内であっても競技会準備を優先とし、競技役員の指示に従うこと。

なお、競技場での練習は、1日目・2日目ともに8時30分までとする。

なお、安全のため日傘の使用を禁止する。

※いずれもジョグはレーン外で ・ 1、2レーンは長距離ペース走用

【1日目】

○ホームストレート

3～7レーン = 直線からのスプリント練習

8レーン = 100mH 9レーン = 110mH

○バックストレート

3～6レーン = リレー練習

※リレーバトン練習は1→2走 ・ 3→4走は第2コーナー、

2→3走は第3コーナーで行うこと。

各校で使用したりレーのマーク（テープ）は必ず取り除くこと。

【2日目】

○ホームストレート

3～8レーン = 直線からのスプリント練習

9レーン = 110mH

○バックストレート

3～6レーン = コーナーからのスプリント練習

7レーンは使用しない（接触等の防止のため）

8レーン = 女400mH 9レーン = 男400mH

5. 招集について

※招集所へのスマートフォン・携帯電話等の通信機器の持ち込みは禁止する。

※下記の時間帯に招集を完了できなかった場合は出場できない。

(1) 招集場所は室内練習場とする。

(2) 招集は競技開始時刻前の下記時刻で行う。

招集時間	トラック	跳躍	投てき	棒高跳
開始時刻	30分前	50分前	60分前	80分前
完了時刻	20分前	40分前	50分前	70分前

(3) 競技者は招集開始時刻には招集場所にて上半身競技服装になり、競技者係より点呼を受け、アスリートビブス・腰ナンバーカードおよびスパイクピンの確認を受けてそのまま待機し、招集完了時刻に競技役員の指示により移動すること。

- (4) 招集の代理は認めない。ただし、招集時間帯に競技が行われる可能性がある場合には、**第1種目の招集開始時刻までに「多種目同時出場届」**を招集所へ提出すること。なお、第1種目は招集を受けなければならないが、提出をした第2種目は代理をたてる必要はない。提出時には、ユニフォーム・アスリートビブス・スパイクの確認を受けること。
- (5) リレー種目について
- ・オーダー用紙は**第1組の招集完了時刻の60分前**までに競技者係へ提出すること。
 - ・リレーの招集は4人揃って受けること。ただし、他種目に出場している時は「多種目同時出場届」を提出することで、代理を立てる必要はない。
- (6) やむを得ず欠場する場合は、プログラムにある欠場届を競技者係へ提出すること。

6. 競技について

- (1) アスリートビブスは必ず胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技は胸部または背部だけでよい。トラック種目では、腰ナンバーカードをパンツの右側やや後方に付けること。4x400mリレーの第2・第3走者は、次走者の待機順を明確にするため、右側に腰ナンバーカードをつけること。また、3000m・5000m・5000mWについては、1次招集を受けた後、別ナンバーカードを受け取ること。
- (2) スパイクのピンは、本数は11本以内とし、9mm以下の全天候競技場用のものを使用すること。ただし、走高跳・(やり投)については12mm以下とする。また、スパイクの直径は先端近くで少なくとも長さの半分は4mm 四方の定規に適合するように作られていなければならない。
- (3) トラック競技でフィニッシュした競技者は本部前を通らず、競技場内のバックスタンド前を通過してスタート地点に帰ること。
- (4) 競技エリア内に通信機器(携帯電話等)やビデオ撮影機器(タブレット等)を持ち込んではいならない。また、競技エリア内で助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。
- (5) フィールド種目について
- ① トップ8を行う。
 - ② 跳躍種目はセクションラインを設ける(但し、走幅跳・三段跳は、1回は全員計測)。

走高跳【男子】 1m50 【女子】 1m25 走幅跳【男子】 5m20 【女子】 4m20

三段跳【男子】 11m00 【女子】 9m00
 - ③ 走幅跳は1組(メインスタンド前トラック側)、2組(メインスタンド側)で行う。走高跳は1・2組に分かれる場合は、第一曲走路内側で1組(メインスタンド側)、2組(バックスタンド側)で行う。棒高跳は第二曲走路外側の北ピットで行う。
 - ④ バーの上げ方は下記のとおりとする。※走高跳・棒高跳ともに練習の高さは当日現地で決定する。

男 走高跳	現場判断 練	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	1m80	以降 3cm
女 走高跳	現場判断 練	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	以降 3cm	
男 棒高跳	現場判断 練	2m80	3m00	3m20	3m40	3m60	3m80	4m00	以降 10cm
女 棒高跳	現場判断 練	2m00	以降 10cm						

- ⑤ 投てき競技や棒高跳びの滑り止めについては、主催者は準備しないので、個人で持参すること。
- (6) フィールド競技の試技制限時間(単独種目)

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2~3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技※※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の競技は1分とする。

※※残っている競技者が2人以上の時に適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

- (7) 男5000m・女3000mは二段階スタートとする。グループ分けは出発係の指示に従うこと。競歩種目では、ラスト1周で男子5000mWは33分00秒、女子5000mWは37分00秒を超える選手は、競歩主任が競技を打ち切る。ハーフパンツでの出場は認めない場合もある。

7. やり以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。やりの検定は、競技開始時刻の90分前より30分間、用器具庫前で行う。
8. 各種目6位入賞者は、表彰状を表彰係（正面スタンド中央下の部屋）まで取りにくること。総合得点は、3・4地区それぞれ1～6位の学校に表彰状を授与する。
9. 次年度のアスリートビブスについて
本大会の3・4地区それぞれ総合順位の上位6校に対して、上位校より次年度のアスリートビブスを優先的に割り当てる。それ以外の学校については、従来通り申し込み順とする。
10. 免責事項について
 - (1) 競技中に生じた事故については、応急処置の他一切の責任を負わない。
 - (2) 競技会に関わる全ての人の感染に対するいかなる責任も負わない。
 - (3) Jアラート警報が発令された場合や雷時には、競技を中断・中止する場合がある。その場合は参加料の返金はしない。
11. その他
 - (1) 顧問の受付がない学校の競技者の出場は認めない。
 - (2) プログラムは、配布しないので各校で印刷準備すること。
 - (3) 競技日程はプログラム記載のものを確認すること。HPにUPされているスタートリストの競技開始時間は参考なので、必ず競技日程を確認すること。
 - (4) 補助員は各校1～2名出ること。補助員分担は別頁に記載してある。
 - (5) 記録は、電光掲示板およびWEB ページで確認すること。（記録ボードは設置しない。）
 - (6) 撮影は許可証（正面玄関1F入口で発行）を必要とし、当該生徒のみの撮影とする。
 - (7) 声を出して応援するときは、前後の間隔に配慮すること。
 - (8) 盗難が発生しているため貴重品等の持ち物の管理は各校・各自で注意すること。
 - (9) 2日目(27日)の開門抽選は、26日(土)13:00～13:15の間に1階エントランスで行う。

第23回阪奈和対抗陸上競技大会について(次年度は奈良県にて開催地予定)

- (1) 3・4地区合わせて、男・女それぞれに、
 - ・トラック12位(リレー種目12位)
 - ・フィールド6位
 - ・長距離オープンレーン種目(1500m・3000m・5000m・3000mSC)10位
 - ・5000m競歩4位上記の人数までが阪奈和対抗大会に出場できる。但し各種目1校2名までとする。
- (2) 阪奈和対抗大会の出場資格記録は本大会の記録を申請する。
- (3) 辞退する場合は、すみやかに各地区主任まで連絡をすること。

個人情報取り扱いについて

プログラム記載の個人情報（名前、学校名など）および大会結果は、新聞および大阪陸上競技協会・大阪高体連陸上競技専門部のWEBサイト等に記載されますが、本大会関係以外には一切使用しません。また、本大会が認めた報道機関が撮影した映像が中継・録画放送されることがあります。

以上